

## 4. 鳥類調査結果の概要

#### 4. 鳥類調査結果の概要

##### (1) 確認種数 (資料II.4.1)

今回とりまとめを行った20河川で確認された鳥類は、18目52科245種です。確認種数が多かった河川は中国地方の斐伊川の127種、北陸地方の九頭竜川（近畿地方建設局管内）の121種、北海道地方の鷓川の111種等でした。また、鳥類調査における平均確認種数は94種でした。

##### (2) 特定種の確認種数 (資料II.4.2)

今回とりまとめを行った20河川で確認された特定種は、レッドリスト絶滅危惧ⅠA類のクロツラヘラサギ等52種でした。特定種の確認種数が多かった河川は中国地方の斐伊川の25種、北陸地方の九頭竜川（近畿地方建設局管内）の20種、北海道地方の声間川の19種等でした。

##### (注) 特定種の選定基準について

本資料においては、次のものを特定種としています。

- ・「文化財保護法」の特別天然記念物及び天然記念物
- ・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種及び緊急指定種
- ・環境庁編（1998）「レッドリスト」掲載種
- ・環境庁編（1991）「日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—」掲載種
- ・環境庁編（1976）「緑の国勢調査（第1回自然環境保全調査）」における「すぐれた自然の調査」主要野生動物一覧の掲載種
- ・環境庁編（1983）「緑の国勢調査（第2回自然環境保全基礎調査）」における稀少種（鳥類）

##### (3) 外来種の確認種数 (資料II.4.3)

今回とりまとめを行った20河川で確認された外来種は、6種です。

##### (注1) 外来種の選定基準について

本資料における外来種は、おおよそ明治以降に侵入したと考えられる国外由来の動植物とし、侵入後に日本で定着した種であるか否かは、判断が困難な種があるため考慮していません。また、外来種の選定は、資料I.5（42～43ページ）に示した文献及び学識経験者の意見により行っています。

(注2) 本資料では外来種に放籠鳥を含めています。

##### (4) ヤマセミ、カワセミ、カワガラスの確認された地域 (資料II.4.4)

確認状況の概要は、11ページに示すとおりです。

##### (5) ヤマセミ、カワセミ、カワガラスの確認状況の経年比較 (資料II.4.5)

確認状況の概要は、11ページに示すとおりです。

(6) 猛禽類の確認種数と鳥類全体の確認種数の関係 (資料II.4.6)

確認状況の概要は、11ページに示すとおりです。

(7) コウノトリ目、カモ目、チドリ目の確認個体数の鳥類全体に占める割合 (資料II.4.7)

確認状況の概要は、12ページに示すとおりです。

(8) 確認個体数の多い鳥類一覧 (資料II.4.8)